

11 科学教育

自然科学や科学技術の進歩には目覚ましいものがある。こうした社会的な背景の中で、科学技術に対する創造力を育むために、小学校段階からの科学教育が、学校教育全体の中で正しく位置づけられ、周到な指導計画のもとに、具体的な実践を通して展開されるように努める必要がある。

本年度は、上記の方針をもとに、次のことに重点をおいた。

① 理科及び数学の学習指導の充実

自然の事物・現象の探究を通して科学の方法を習得させることを主眼に、小・中・高ともに学習指導要領に示されたそれぞれの目標・内容に沿って、綿密な計画と的確な方法によって系統的発展的な学習が行われるように指導助言する。

② 小学校教員及び中学校・高校理科、数学科教員の研修

理科、算数・数学の学習指導にあたる教員には、その指導力の向上を図るための研修の機会を設けるとともに、教員自らが主体的に研修するよう指導・助言する。

③ 学習環境の整備・活用と安全教育の徹底

科学的環境を整備し、その積極的な活用を図るとともに、薬品の管理と適正な使用など安全教育に対する指導助言をする。

④ 児童生徒及び教員の科学研究の奨励

科学研究の奨励に努め、科学技術に対する関心を高めるとともに、自主的研究と実践力の向上を図る。

⑤ 科学教育研究団体の育成と助言

科学教育研究団体に対して、その充実発展のため指導助言を行い、科学教育全般の水準を高めるとともに、研究成果を上げるように努める。

(1) 長野県学生科学賞作品展覧会

児童生徒の科学技術への関心を高め、長野県における科学教育の振興と探究的な児童・生徒の育成を図った。

ア 主 催	長野県教育委員会	長野県科学教育振興委員会				
イ 後 援	伊那市教育委員会					
ウ 期 日	展覧会	9月30日(土)～	10月2日(月)			
エ 会 場	伊那市立伊那小学校					
オ 出 品 数	小学校の部	48 点	中学生の部	26 点	高等学校の部	39 点
カ 審査結果	知 事 賞	小 1	中 1	高 1		
	県議会議長賞	小 1	中 1	高 1		
	県教育委員会賞	小 1	中 1	高 1		
	優 良 賞	小 12	中 3	高 6	計 30	
キ 審査委員会組織	委員長 1	副委員長 1	委員 36	幹事 6		

(2) 信州サイエンスキャンプ事業

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校及び理数科等設置校と県内大学との科学技術教育推進の連携組織「信州サイエンスキャンプ事業推進委員会」を構築し、県内の全公立高等学校と私立高等学校に、SSH 事業における研究成果の普及と理数学力伸長を促進するための事業を行った。

ア 信州サイエンステクノロジーコンテスト（科学の甲子園全国大会長野県予選）

イ 課題研究合同研修会（兼全国高等学校総合文化祭自然科学部門県予選）

ウ 信州サイエンスミーティング（課題研究合同発表会）

エ 長野サイエンスコンソーシアム（SSH 指定校及び理数科等設置校の担当者会）

(3) 信州大学教職員派遣研修

小・中学校及び高等学校及び特別支援学校の産業教育及び理科教育の担当教員に対し、産業教育及び理科教育に関する基礎的研究を行う機会を与え、もってその資質の向上と指導力の強化を図るものとする。

ア 開設者 信州大学

イ 研究室分室 理学部

ウ 入室者数 1 名

(4) 理科施設、設備の整備・活用

理科施設、設備を整備するとともに、その活用について指導主事の学校訪問、各種講習会等を通して指導助言した。

(5) 令和 5 年度長野県学校科学教育奨励金の交付

ア 応募件数 17 件

イ 交付件数 17 件

ウ 交付総額 1,491,755 円

(6) その他

① サイエンス・アソシエーション・プロジェクト（SAP）

SSH指定校ほか、県立高校が企画する最先端の科学技術や基礎研究に関する取組を支援し、国内の大学・研究機関・企業と連携した校外研修等を実現した。

ア 予算額 3,180,000 円程度（1 校当たり 30 万円を上限）

イ 交付件数 12 校 15 件

② 科学エキスパート講座

高校生の科学への興味関心を喚起し、理数系の能力を伸長するため、信州大学と連携した特別講座を実施し、各種科学コンテストの参加を促すとともに実力養成を図った。

ア 信州大学理学部による自然科学 7 分野 8 講座

イ 参加者 20 校 80 人